

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400648		
法人名	有限会社 水谷		
事業所名	グループホーム すまいる水谷		
所在地	岐阜県羽島市下中町市之枝2丁目408番地		
自己評価作成日	令和7年2月28日	評価結果市町村受理日	令和7年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kainokensabu.nhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhou_detail_022_kanri=true&jiyouyouId=2170400648-00&ServiceId=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和7年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用定員6名、現在ご利用者5名と少人数で家庭的な介護サービスを提供できる事が強みです。ご家族の負担を極力軽減できるよう、主治医への通院は全て事業所に対応しています。新型コロナウイルス・インフルエンザ感染防止対策を徹底していますが、昨年4月にご利用者3名、職員3名が新型コロナに感染しました。全員ワクチンを接種し、感染者対応もマニュアルどおり実施したため全員軽症で完治しました。羽島市内では定員20名以上の介護付き有料老人ホームや住宅型有料老人ホームが乱立し、小規模グループホームは地域密着型のため空室が出て新たな入居希望者確保が困難で、継続運営が難しくなりつつあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は安全に配慮して、職員・利用者共に楽しく明るく笑顔のある生活が送れるように取り組んでいる。利用者の状態や性格を熟知し、一人ひとりの思いや意欲を尊重して支援している。不機嫌な時はそっと見守りする時もあるが、話しかけると利用者誰もが返答し、会話ができる。利用者が職員を呼んだ際、職員が直ぐに対応できない時に利用者同士で助け合う場面もあり家庭的な雰囲気がある。事業所は地域に根付き、地域住民は、自宅介護に不安になると協力医の紹介もあり、気軽に事業所を訪問し相談している。デイサービスやショート、認知症介護などの情報を伝えている。管理者が看護師で常駐しており、協力医とも連携があり、通院の付き添い、入院時の面会、重度化や終末期の対応など家族も安心できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心・安楽」を経営理念とし、利用者から終の住処と考えてもらえるように「いつまでもお元気で楽しく暮らしていただけるホーム」を目指している。	管理者は、新規採用時や機会がある度に理念について話をしている。安全に配慮し1日1回は利用者に笑ってもらえるように職員に伝えている。職員も一緒に明るく楽しい生活を送れるように努め、ここにいて良かったと思ってもらえるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた折、地域住民の方にはこちらから挨拶するよう心掛けています。	散歩時に挨拶したり、野菜をもらったりして顔なじみの関係がある。利用者が一人で戸外に出た時、近隣の人が利用者を事業所まで連れてきてもらったこともある。小学校の運動会や神社の子ども神輿に出かけている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は書面会議で開催し議事内容を郵送報告、ご意見等があれば連絡頂くようお願いしている。ご利用者の状況は面会時やメールで連絡している。地域の代表は寺ご住職に依頼予定。	コロナ禍以降、定期的に書面会議を開催する予定であったが、管理者、代表者の入院、利用者、職員の新型コロナ感染やインフルエンザの感染防止もあり、年1回の開催となった。	定期的に運営推進会議を開き、事業所での取り組みを理解してもらい、様々な意見をもらったり、協力を得るなどサービスに活かすことを期待する。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご家族からの要請を受け介護認定更新手続きの申請や主治医の意見書写しを受領している。又、生活保護受給家族についても相談している。包括支援センターや市民病院の生活相談員には空室状況を報告している。	市担当者と普段の連絡は、メールや電話で行っている。生活保護の不明な点や困難事例、申請代行などは、直接出向いて相談し説明や助言を受けている。市主催の研修は出席するよう努めている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ホームの理念に基づき職員にも、しないケアの実践の徹底を図っている。必要であれば床マットセンサーも活用し、事故防止に努めている。玄関の施錠は夜間以外はしていない。	玄関の施錠を含め身体拘束は行っていない。ケアが重なった時、納得して待ってもらえるようスピーチロックなど言葉使いにも注意している。定期的に身体拘束適正化委員会を開いているが、研修記録が1回しか確認できなかった。	年2回の研修を実施し、記録に残されることが望まれる。
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が常駐、毎日のケア状況をチェックし、身体虐待のないことは勿論の事、言動での虐待が無いかも確認している。	入浴時に虐待を疑うような身体に異常がないか確認している。不適切な対応があれば申し送りノートで例を挙げ注意し、改善しない場合は、直接指導している。管理者は日頃から利用者は過ごしやすく、職員は働きやすい環境にして虐待防止に努めている。	

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのないご利用者2名が、それぞれ入所していた障害者施設、包括支援センターそれぞれから、身元保証、財産管理、家族緊急駆け付け支援、終活支援を利用することになった。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は利用契約書及び重要事項説明書について説明を行い、疑問点がある場合や改定時には随時理解と承認を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から訴えや要請があれば、どのような対応が望ましいかを管理者が独りよがりにならず、介護職員と検討し実践している。運営会議書面開催でも、要望をお伺いするようにしている。	面会時や電話で利用者の様子を伝えて要望など聞いている。家族より「足が弱ってきた」「発語が少ないので話しかけてほしい」希望があった。廊下で歩行能力向上のため、歩行練習を実施、発語を促すため日常会話に努め実施内容や経過を家族に報告している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からその都度連絡を受け対応し、申し送りノートに記入し情報を共有している。併せて意見や提案をもらい、必要があれば会議等話し合いの場を設け、周知徹底している。	管理者も現場に入り日頃から職員の提案や要望を聞いている。介護の質の向上や利用者の生活の改善につながることで、仕事に便利な物品の購入など直ぐに出来ることは取り入れている。必要に応じて話し合ってから対応している。申し送りノートで情報を共有している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	勤務はシフト制を採用せず、休日希望を確認のうえ勤務表を作成し満足を得ている。また最低賃金を上回る時間給に改定した。	職員の年齢や家庭事情を配慮し、希望休を確認して勤務表を作成している。急な欠勤の場合は、管理者が代わりに勤務に入っている。管理者は、世間話をしながら不満やストレスがたまっていないか聞くように心がけ、働きやすい職場作りに努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「認知症介護基礎研修」については、資格がない職員にはオンライン研修を利用して受講。3名が修了証を取得したが1名退職。職員補充の2名は資格があり、受講は不要。	新人研修は、計画に沿って管理者が指導している。資格取得やスキルアップの外部研修は、研修内容を案内して、対象者に受講を勧めている。事業所から費用の補助をして応援している。	

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	岐阜県GH協議会及び日本認知症GH協会に加入しているが、Zoomでの研修が多く交流する機会に恵まれていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ場所、時間を共有することにより利用者個々の気持ちを理解し声かけを積極的に心掛け、洗濯物たたみ、チラシによるゴミ箱作り、新聞の整理等をお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者5名の小規模事業所の強みを活かし、利用者のご家族が希望される生活が出来るよう、利用者本人の状態や性格も十分に把握し、気持ちを汲み取り対応している。	日々の生活の会話から思いや希望を聞いている。化粧品や食べ物の希望があれば、一緒に買い物に出かけている。食事の時間は、利用者のペースに合わせて支援している。居室にこもる利用者には、世間話をして表情や行動から思いの把握に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、ご家族、ケアマネ、職員(ケアマネ資格取得者含む)と話し合い、主治医と連携を取りながら介護計画を作成している。介護度の進行に伴うケアプランの見直しも行って	家族の面会時に希望を聞き、個別記録やモニタリングを基に介護計画の見直しをしている。受診の際に、医師の意見や注意事項を確認している。必要に応じて担当者会議を行い、利用者の状態に即した介護計画の作成に努めている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの結果について記録し、職員間で変化を共有しつつ、実践や介護計画の見直しに活かしている。申し送りノートにも記録し、確認のサインをすることで情報共有の徹底を図っている。	個別のケア実施記録に介護計画のサービス内容を記載し、職員に理解しやすいよう工夫している。利用者の様子や発した言葉、ケアの実践と気づきなどを記録し、介護計画の見直しに活かしている。重要なことは申し送りノートにも記録して情報を共有している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ご家族と連絡を密に取り状況を説明、相談しながら柔軟な対応を行っている。エアマットや離床床マットセンサーも必要であれば提供できる体制にある。	管理者が、利用者全員に付き添い受診支援をしている。購入したいものがあれば、利用者と一緒に買い物に出かけている。ナースコールを使えない利用者には離床センサーを使用し、危険のないよう見守っている。	

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の高齢化が進み、参加が困難となリつつある。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を最優先し、事業所とかかりつけ医とは十分な連携があり、適切な医療や指導を受けている。現在のご利用者5名の通院対応も全て事業所に対応している。	本人・家族の希望で利用者全員が、管理者（看護師）の付き添いで協力医を受診している。時間外や急変時に医師が不在の際は、病院の救急外来にかかっている。歯科や専門医の受診も事業所に対応、支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された場合は介護サマリーを提供し、ご家族の承諾を得て管理者が（看護師兼務）病院に出向き、担当看護師、病院関係者等に容態を確認、生活相談員や主治医とも連携を取っている。	入院時に介護サマリーを渡し、病院担当者に病状の確認をしている。週1回は面会にも行っている。退院時のカンファレンスに参加して利用者が安心して戻れるよう支援している。看護師が常駐しており、医療依存度が高くても、受け入れは可能である。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については家族の意向を尊重し、主治医に判断を仰ぎ、延命治療の可否やケアについて検討している。家族から施設での看取りの希望があれば、身体的、精神的苦痛を少しでも緩和できる様ケアに努め、受け入れ対応している。	入居時に看取りについて説明している。重度化となった場合、状態の変化に応じて管理者から説明し、家族が心配な時は医師より説明を受けている。何かあれば敷地内に住む管理者（看護師）がかけつけている。家族が居室に泊まり最期と一緒に過ごして看取りに立ち会う支援もしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、敷地内に居住する管理者（看護師）と介護職兼総務担当者への緊急連絡を徹底している。職員には利用者の状態を的確に報告、説明ができるよう指導している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、火災通報設備等の保守点検は毎年7月に受け、火災報知機・消火器の取扱い及び避難訓練を実施。水害時避難確保計画を作成し、地域区民会館への避難訓練を実施した。	夜間想定を含む避難訓練を行っている。防災設備業者も立ち合い、防災機器の使い方の説明を受けている。地域の避難所へ実際に避難する訓練も行った。代表者・管理者が地元住民で地域との協力関係がある。備蓄は水、レトルト食品など3日分を確保している。	

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格とプライバシーを尊重し、職員にもご利用者の尊厳を大切にし、否定的や自尊心を傷つける言葉を使わないよう徹底している。特に排泄・入浴時にはプライバシーに特に注意している。	管理者は、親しみの中にも尊敬する気持ちを持って対応するよう指導している。言葉づかいや対応で気になることがあれば、申し送りノートに記載して注意喚起をしている。排泄や入浴介助時は、扉を必ず閉めプライバシーの配慮に気を付けている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話や行動などで判断し、思いや行動を汲み取り、自己決定できるように援助している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護職員は各ご利用者の生活や活動ペースを尊重して見守りしている。介助等が重複した場合には待たせる利用者に声かけを徹底している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者は4名が高齢化、お1人が車イス利用者のため、一緒に食事準備や片付けは難しい。メニューは要望を聞いてパン食も取り入れている。	食材販売業者より栄養管理された食材が届き、手順に従い調理をしている。時には、季節の行事食メニューを依頼している。誕生日には利用者の好きなメニューが提供される。テーブル拭きや野菜の下ごしらえ、おやつ作りなど一緒に行っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量を把握し提供、摂取量を記録している。退院後嚥下力が低下したご利用者にはお粥等別メニューで対応しているが、現在対象のご利用者はいない。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをして、その方に合わせた口腔ケアと入れ歯の洗浄及び消毒を実施している。	起床時と毎食後、1日4回の口腔ケアを利用者全員が先ずは自力で行っている。職員は、口腔内を確認し、磨き残しや義歯の洗浄を支援している。虫歯など異常があれば、家族に連絡し許可を得て歯科受診の支援をして早期の治療に繋げている。	

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食事前等時間を見て誘導したり、尿意、便意のある方はサインを見逃さずケアを行っている。リハビリパンツ着用のご利用者は、快適な状態を保てるよう定期的に確認している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は燃料費の高騰もあり、週2回曜日固定で午後を実施。入浴順はご利用者の希望を受け入れて対応、職員がマンツーマンで入浴介助にあたり、楽しんで入浴できるよう入浴剤、季節により菖蒲湯や柚子湯にして対応している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの日々の特徴や習慣を把握し、個々の生活パターンを尊重しながら、精神的に安らげるよう職員の声かけなどで工夫している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者兼看護師が服薬を管理し、内容を職員に説明している。また症状の変化には十分注意し、異常が認められる場合には管理者が連絡を受け、主治医に報告している。	一包化してもらった薬の管理を看護師が行い、服薬時は、薬を口の中に入れたことを確認している。口腔内や薬袋に薬が残っていないかの確認もしている。薬の変更や追加があれば、内容を職員間で共有し服薬後の状態に変化がないか注意している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みでぬり絵やパズル、ラジオ体操、唱歌合唱をDVDを使用し実施している。テレビはリビングか個室でかはご利用者が選択し、視聴してもらっている。可能なご利用者には洗濯後のタオル畳みを依頼している。	テーブル拭きや野菜の下ごしらえ、洗濯物たたみ、使用済の新聞紙たたみやゴミ箱づくりなど得意なことや利用者の力を活かしている。レクリエーションとしてちぎり絵やぬり絵を行ったり、気分転換や身体機能の維持のためラジオ体操や歩行練習、ボール遊びなどを行って楽しんでいる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者の体調に配慮しながら、可能な時は戸外に出かけ散歩するように支援している。ご家族との定期的な外出や外食は、マスクを着用しお出かけしてもらっている。	天気の良い日には散歩に出かけている。季節毎に桜、紅葉など花見にドライブに出かけ、帰りに喫茶店に寄ったりしている。市民の森や買い物などの外出もしている。家族と図書館や外食に出かける人もいる。	

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向と利用者の認知度により、原則お金は所持していない。利用者が買物を希望される場合には同行し、家族の同意を得て実費請求で対応している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されていないご利用者には、必要であれば施設設置の電話を無償で利用可能としている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日勤者が出勤時毎日、施設共用空間の清掃から始めて清潔に保ち、不快感を感じないよう配慮している。天窓から自然光も差し込み季節の花や飾り物をする等して、ゆったりと過ごしていただけるよう努めている。	毎日の清掃、換気や消毒をこまめに行い感染防止に努め、快適に過ごせるようにしている。玄関などに職員が持ってきた季節の花を飾り、廊下には季節行事の作品を掲示している。リビングで職員との会話やテレビを観たり新聞を読む人もおり、思い思いに過ごしている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の習慣や能力により、自室と使い分けが出来るよう配慮している。新聞も好きな時に読めるよう用意している。車椅子ご利用者は、本人の思いを尊重し行動している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持参されたタンス、家族の写真等を飾り、居室のレイアウトは利用者や家族それぞれの好みにお任せしている。収納物は一目でわかるよう心掛け、居室にテレビの持ち込みは拒まず無償で視聴いただいている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手摺も設置し、安全かつ自立した生活が送れるようにしている。一人ひとりの能力に応じてADLが維持出来るよう自走式車イスを使用したり、トイレ誘導時には手すりに掴まり立ちできるよう見守り支援している。		